
2010 年度
映画英語教育学会 (ATEM) 関西支部
第 8 回大会資料

シンポジウムテーマ：「映画『シェーン』徹底活用法」

日時：平成 22 年 9 月 25 日 (土)
10:00AM ~ 18:00PM

会場：近畿大学本部キャンパス (東大阪キャンパス)
受付：11 月ホール 2 階語学センター



(株) フォーイン スクリーンプレイ事業部協賛

The Association for Teaching English through Movies

大会プログラム

10:00—12:00 映画『シェーン』上映（11月ホール2階201教室）

12:30—12:40 開会の辞・支部総会（11月ホール2階201教室）
司会：横山 仁視（ATEM 関西事務局長兼副支部長・京都女子大学）
挨拶：藤枝 善之（ATEM 関西支部長・京都外国語短期大学）

招待研究発表（11月ホール2階201教室）

12:40—13:10 「会話速度とリスニングの関係」
司会：井村 誠（大阪工業大学）
新田晴彦（専修大学）

13:10—13:15 休憩

研究発表

<第1室：11月ホール2階201教室>

司会：石川 弓子（大阪大学）・吉川 祐介（佛教大学・非）
13:15—13:45 1. 「自由選択映画（DVD）レポート提出によるリスニング課外活動」
成田 修司（大阪経済大学・非）

13:45—13:50 休憩

13:50—14:20 2. 「映画における高頻度基本コロケーションの性質」
古樋 直己（津山工業高等専門学校）

14:20—14:25 休憩

14:25—14:55 3. 「映画を使った高校生向けの英語教材作成と実践報告」
上田 聖司（大阪府立八尾翠翔高等学校）

14:55—15:00 休憩

15:00—15:30 4. 「映画英語から仮定法の時制とポライトネスを考える」 大月 敦子（信州大学・非）

15:35—15:40 休憩

<第2室：11月ホール2階202教室>

司会：北本 晃治（帝塚山大学）・増田 将伸（甲子園大学）
13:15—13:45 1. 「『長州ファイブ』における幕末留学生の“living machines”としての英語学習について」
田中 賢司（海技大学校）

13:45—13:50 休憩

13:50—14:20 2. 「アイデンティティを探して：デビット・ゾペティ『いちげんさん』」
高井 若菜（大阪産業大学・非）

14:20—14:25 休憩

14:25-14:55 3. 「『シェーン・カム・パーク！&何処から来たのかおしえて』」
河野 弘美（帝塚山大学・非）

14:55-15:40 休憩

特別研究発表（11月ホール2階201教室）

15:40-16:20 「呼称に見られる「建前」と「本音」の考察—日本・アメリカ・イギリス映画のビジネス場面を分析して—
司会：藤枝 善之（支部長）
北山 環（近畿大学）

16:20-16:30 休憩

シンポジウム（11月ホール2階201教室）

16:30-18:00 テーマ：映画『シェーン』徹底活用法
司会：平井 大輔（近畿大学）

パネリスト：

1. 「『シェーン』で学ぶ一歩進んだ英文法」
山本 五郎（関西外国語大学・非）＜英語学の視点から＞
2. 「The Expression of American Identity Themes in the Film *Shane* through Non-Verbal Communication: Joey's Central Role」
クレイグ・スミス（京都外国語大学）＜コミュニケーション論の視点から＞
3. 「*Shane*を読み解く」福田 京一（京都外国語大学）
＜アメリカ文化論の視点から＞

18:00 閉会の辞
倉田 誠（ATEM 関西大会実行委員長兼副支部長・京都外国語大学）

18:15-20:00 支部交流会（11月ホール地下食堂 Cafeteria November 内 Party Space）
司会：倉田 誠（大会実行委員長）
挨拶：藤枝 善之（支部長）

研究発表概要

<第1室>

●「自由選択映画（DVD）レポート提出によるリスニング課外活動」

成田 修司（大阪経済大学・非）

DVD を活用したリスニング指導法の多くは授業時間内活動を想定したものであろう。課外でのリスニングは、

それに準ずるまたは補完する目的で実施される場合が多いと思われる。本企画を実施したクラスはリスニングの授業ではあるものの、映画を直接の指導教材としていない。学習者向けに書き下ろされたいわば「作り物」で習得したリスニング力を映画というオーセンティック素材を使って確認・向上させるのが本レポートの目的である。レポート内容は学生が任意の映画から「聞き取りにくかったセリフ」を選び、授業で指定した特別な表記方法にて書き出していくものである。結果は聴解力だけでなく学習意欲にも向上が見られた。

●「映画における高頻度基本コロケーションの性質」

古樋 直己（津山工業高等専門学校）

本研究では、映画に高頻度に出現するコロケーションを特性別に分類し、その特性に応じた指導方法を考える。映画には、スクリーンプレイ提供の映語検索を利用し、コロケーションの分類には Koya (2005)の6分類を用いることにした。これには collocational restriction などがある。これは、構成要素を他のほぼ同義の語へ置換不可ということを意味する。指導者は、各コロケーションの特性を理解し、適切な方法で指導に臨まなければならない。なお、本発表は、今夏、全国大会での発表の続編に相当する。

●「映画を使った高校生向けの英語教材作成と実践報告」

上田 聖司（大阪府立八尾翠翔高等学校）

本発表では、Screen English という選択科目（高校3年対象、受講生100名程度）のために開発した教材の作成方法と実践報告をします。Alice in Wonderland「不思議の国のアリス」(P.D., Walt Disney in 1951)を素材として、映画の中で使用される英語表現の学習や聞き取りに役立つ音声の同化、リンキング、消失などの実例を学べるように教材作成をする手順を解説します。LAN教室で利用するためのソフトの紹介、授業展開の方法、生徒が作成したビデオクリップも紹介する予定です。

●「映画英語から仮定法の時制とポライトネスを考える」

大月 敦子（信州大学・非）

英語の仮定法における過去時制は、一般に、丁寧さを示すために用いられる語 please よりも丁寧さを強く伝えられている。このことは近年、日本語においても観察される言語現象である。では、なぜ過去時制が丁寧さを表すことができるのだろうか。認知言語学的視点から“過去の認識”をキーワードに、テレビドラマ『ER』を中心に、過去時制とポライトネスの関係を議論する。

<第2室>

●「『長州ファイブ』における幕末留学生の“living machines”としての英語学習について」

田中 賢司（海技大学校）

英語を母国語としない者同士の意思疎通のため、海技従事者は英語使用の重要性を心得る必要があるが、現実にはその動機づけは容易ではない。本発表では、船内外において英語の使用の意気を養い、意思疎通の困難を克服する必要がある英語学習者に対し、映画『長州ファイブ』にて幕末留学生らが自らを“living machines”として渡航した模様を通して、近代化黎明期の英語学習の意義を確認した教育上の一例を紹介する。これは海技従事者のみならず、急変する現代における英語学習者にも示唆的な一事例となると思われる。

●「アイデンティティを探して：デビット・ゾペティ『いちげんさん』」

高井 若菜（大阪産業大学・非）

『いちげんさん』は1980年代の京都で留学生生活を送る主人公「僕」を描いた小説をもとに作られた映画である。著者デビット・ゾペティはスイス生まれで、5ヶ国語を操る。独学で日本語を学び、現在も日本語で小説を発表し続けている。ゾペティは「ボーダーレスの時代に人間の移動が自由になればなるほど、自分のアイデンティティとは、いったい何だろうということが非常に重要になってくる」と述べる。この発表では、ゾペティ自身の体験ともいえる、主人公「僕」の異国文化・言語におけるアイデンティティ探しを中心に見ていく。

● 「『シェーン・カム・パーク！&何処から来たのかおしえて』」

河野 弘美 (帝塚山大学・非)

映画作品には外国の文化や歴史を学習・理解するのに役立つ素材が数多く存在している。本発表では映画史に残るアメリカ映画『シェーン』(邦題) (1953年) を題材とし、スクリーン上に現れる登場人物、自然、文化、歴史をもとに1890年のアメリカをどれくらい理解できるのかを分析していく。本発表では特にアメリカの代名詞「人種のるつぼ」に焦点をあて、主人公シェーンを始めとし、主な登場人物たちのルーツはどの国にあるのかを検証し、多文化・歴史を学ぶ授業でどれくらい教材として使用できるかを考察していくことを目的とする。

特別研究発表概要

● 「会話速度とリスニングの関係」

新田 晴彦 (専修大学)

会話速度が上がると、「ボソボソ」と何を言っているのかよく分からない部分が増えてくる。聞こえた部分を頼りに意味を推測するが、聞き取れない部分が増えてくるとやがて推測すらできなくなる。こうした現象を聞き落とす単語の量に着目し、会話速度が上がるにつれ聞き落とす単語がどのように増えていくのかの分析を行った。この分析データと映画の会話速度の分析データを元に会話速度がリスニングにどう影響を与えているのかを映画を見るという視点から報告を行う。

● 「呼称に見られる「建前」と「本音」の考察 -日本・アメリカ・イギリス映画のビジネス場面を分析して-

北山 環 (近畿大学)

日本における社会行動形式を論じる時、必ず取り上げられる典型的な概念の一つは、「建前」と「本音」の二重構造である。しかし、これらは決して日本固有の特徴ではなく、西洋にも存在すると言える。ただ、文化によって、その表れ方や程度が違うのである。今回の発表では、日本文化と英米文化における「建前」の違いが呼称の使用にどのように反映されているのかを、それぞれの映画のビジネス場面で比較・検証し、呼び方に軋轢が起こった状況を幾つか呈示することにより、話者の「本音」の根拠となる要因も合わせて探ろうとするものである。

シンポジウム発表概要

● 「『シェーン』で学ぶ一歩進んだ英文法」

山本 五郎 (関西外国語大学・非)

本発表では映画『シェーン』の文法的な側面に注目し、条件文を取り上げる。条件文は、「もし~だったら」という前提節と「...だろう」という結果を表わす帰結節から成るが、帰結節中の未来表現 (will と be going to) については文献によって異なった説明が見られる。文法性の容認度についても、will のみを認め be going to を不可とするものから、be going to も限定的に容認するものまで様々であるが、この語法について Joe のセリフをもとに英語教育の視点から体系的な説明を試みる。

● 「The Expression of American Identity Themes in the Film Shane through Non-Verbal Communication: Joey's Central Role」

クレイグ・スミス (京都外国語大学)

The parallel opening and closing scenes of the film *Shane* memorably frame its presentation of the tensions in the ever on-going development of the American identity. Non-verbal means of communication describe Joey, the young son of the farming couple, as the principal observer of the drama who draws the film's viewers into interactive participation in independent analyses of the meaning of the story. A presentation of conflicting views of the roles of private and public use of guns in asserting the rights of individual communities in the United States to create and sustain their own definitions of peace lends itself to non-verbal depictions in this film. *Shane* remains a timeless expression of the struggle to reach a consensus on American values partly because of the stark clarity of the poetic beauty of the visual aspects of the film's messages about the use of brute force to establish individual rights and freedoms.

● 「*Shane* を読み解く」

福田 京一（京都外国語大学）

Shane からどのような文化的なメッセージを読みとることができるか。考える視点として3点あげたい。1. 神話としての西部劇。2. 歴史としての西部劇。3. メロドラマとしての西部劇。結論として、この映画は、新大陸への入植と開拓の使命の正統性、適者生存の論理の正当性、1950年代の冷戦体制下におけるアメリカの倫理性を主張する作品であり、同時に西部劇の変化を予兆させる50年代の西部劇のひとつでもある。

会場校キャンパスマップ



※会場：27番（＝11月ホール）2階語学センター内

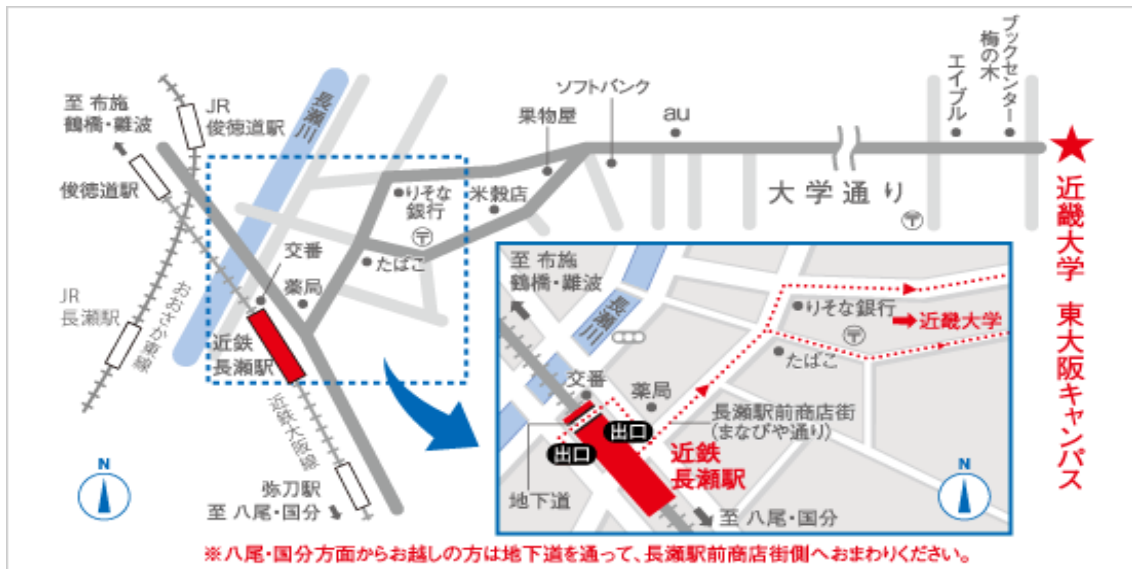
※交流会会場（11月ホール地下食堂 Cafeteria November 内 Party Space）

会場校へのアクセス



http://www.kindai.ac.jp/about/access/print_honbu.html で拡大地図を確認できます

JR 大阪	JR大阪環状線 15分	JR・近鉄 鶴橋 近鉄大阪線 (普通) 10分	近畿大学 東大阪キャンパス	
JR 京橋	学研都市線 3分	JR 放出 JRおおさか東線 7分		JR・近鉄 俊徳道 近鉄大阪線 (普通) 2分
近鉄 難波	近鉄奈良線 6分			JR・近鉄 鶴橋 近鉄大阪線 (普通) 10分
JR 天王寺	JR大阪環状線 6分			近鉄 長瀬 徒歩 約10分
JR 三ノ宮	JR神戸線新快速 (東海道本線) 21分	JR 大阪		
JR 京都	JR京都線新快速 (東海道本線) 29分	JR大阪環状線 15分		
近鉄 奈良	近鉄奈良線(急行) 22分	近鉄 石切 近鉄奈良線 (普通) 15分		近鉄 八戸ノ里 徒歩 約20分



近鉄大阪線・長瀬駅下車、徒歩約 10 分
 近鉄奈良線八戸ノ里駅下車、徒歩約 20 分

これまでの ATEM 関西支部大会シンポジウムテーマ

【支部大会】

2002 年 9 月 14 日	映画英語教育学会関西支部設立決起大会開催（於： 京都外国語大学）
2003 年 9 月 14 日	映画英語教育学会関西支部 第 1 回大会開催（於： 京都外国語大学） ●シンポジウム：「怪物映画に学ぶドラキュラ vs フランケンシュタイン vs スパイダーマン」
2004 年 6 月 26 日	映画英語教育学会関西支部 第 2 回大会開催（於： 京都外国語大学） ●シンポジウム：「"Working Girl" 徹底活用法」
2005 年 9 月 18 日	映画英語教育学会関西支部 第 3 回大会開催（於： 京都女子大学） ●シンポジウム：「"DAVE" 徹底活用法」
2006 年 10 月 21 日	映画英語教育学会関西支部 第 4 回大会開催（於： 大阪工業大学大宮キャンパス） ●シンポジウム：「"I am Sam" 徹底活用法」
2007 年 10 月 20 日	映画英語教育学会関西支部 第 5 回大会開催（於： 摂南大学） ●シンポジウム：「"The Devil Wears Prada" 徹底活用法」
2008 年 10 月 18 日	映画英語教育学会関西支部 第 6 回大会開催（於： 京都ノートルダム女子大学） ●シンポジウム：「"Anne of Green Gables" 徹底活用法」
2009 年 09 月 26 日	映画英語教育学会関西支部 第 7 回大会開催（於： 帝塚山大学学園前キャンパス） ●シンポジウム：「"LITTLE MISS SUNSHINE" 徹底活用法」

【映画英文法ワークショップ】

2009年5月9日	映画英文法ワークショップ 第1回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「英語の時制表現に関する一考察」
2010年5月8日	映画英文法ワークショップ 第2回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「認知言語学で読み解く映画の英語 ―中・高・大の授業の活性化をめざして―」

【お知らせ：大会参加費について】

会員・非会員とも大会参加費は無料です。
どなたでも自由に参加できます。ご来場をお待ちしています。

【お知らせ：発表者の方へ】

発表者の控え室として「11月ホール3階301教室」を用意しています。
また、「11月ホール2階202教室（発表第2室）」で接続モニター確認をすることができます。
ご利用ください。

【お知らせ：出版物展示】

関西支部会員による出版物を中心に「11月ホール2階廊下」に展示コーナーを設置します。会員諸氏の著書や教科書などを、積極的に持ち寄り展示してください。尚、陳列方法は大会事務局にお任せください。また、飲み物・お菓子類を用意しています。

【お知らせ：昼食場所】

11月ホール地下1階には食堂 Cafeteria November があります。
当日土曜日は、11:30am～15:00pm まで利用可能です。

【お知らせ：交流会参加費について】

参加費は受付にてお支払いください。一般4,000円、学生3,000円です。
会員諸氏との交流および発表者との意見交換の場として是非ご参加ください。

西部劇の金字塔！ 心優しきガンファイターの心の旅

1953年アカデミー賞
撮影賞（カラー）受賞作品

ワイオミングの青い山々に少年の声がこだまする
シェーン



山と草原が広がるワイオミングの高原に、馬の背に揺られ姿を現した旅人シェーン（アラン・ラッド）。周辺の仲間世帯とともに、荒野を開拓する農民として居を構えていたスターレット一家の元で生活を始めることになった彼は、次第に、牧畜業者のライカー一味と農民たちとのいさかいに巻き込まれていくのだった。大人たちの世界で引き起こされる葛藤や出来事をスターレット家の息子の視点で描いた本作の見所は、衝撃的なガンファイトシーンもさることながら、有名なラストシーンをはじめとした巨匠ジョージ・スティーヴンスならではのリアルかつヒューマニズムあふれる情景の数々であり、それらがこの映画を単なる西部劇の枠を越えた傑作に仕立て上げている。

(DVD パッケージより)

新会員申込は本部 HP (<http://www.atem.org/pg113.html>) から

電話・FAX または E-mail でお申込みください。

氏名：住所：電話・FAX：E-mail：勤務先：所属/職業：

※会員名簿は発行していません。

申込先：映画英語教育学会 事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-3-12 アルク高田馬場 4F

TEL: 03-3365-0182 FAX: 03-3360-6364

E-mail: office@atem.org

ATEM Kansai

<http://www.atem.org/kansai/index.html>

映画英語教育学会（ATEM）関西支部

事務局：京都女子大学・外国語教室

横山 仁視 研究室内

yokoyama@kyoto-wu.ac.jp